

東京都認証学童クラブ（移行型）設置申請書

東京都知事 殿

設置者
住 所 東京都渋谷区広尾5－6－6 広尾プラザ6階
氏 名 株式会社ボビズエデュケア 代表取締役 田村篤司

東京都認証学童クラブ事業実施要綱第5章2（1）①の規定により、下記のとおり申請します。

記

1	学童クラブ名			ボビズアフタースクールー番町										
2	学童クラブの所在地			郵便番号	102-0082		住所	東京都千代田区一番町10-8 ウェストビル2階						
3	設置・運営形態			民 設 民 営										
4	設置主体	名称		株式会社ボビズエデュケア										
		住所		郵便番号	150-0012		住所	東京都渋谷区広尾5－6－6 広尾プラザ6階						
		代表者		代表取締役 田村篤司										
5	運営主体	名称		株式会社ボビズエデュケア										
		住所		郵便番号	150-0012		住所	東京都渋谷区広尾5－6－6 広尾プラザ6階						
		代表者		代表取締役 田村篤司										
6	学童クラブ事業開始年月			平成	25		年	12	月					
7	認証学童クラブ事業開始年月			令和	7		年	4	月					
8	支 援 単 位 （※1） の 状 況	（支 援 単 位 名 ）	専用区画面積	（部屋名）	115.21		m ²	（児童数で按分したときの1名あたりの面積）			2.74	m ²		
			児童数	42 名										
			職員体制		放課後児童支援員（常勤）		4		名	放課後児童支援員（非常勤）		0		名
					補助員（常勤）		2		名	補助員（非常勤）		4		名
9	開所時間	平日	放課後から		21時		まで							
		土曜日・長期休業期間		7時	から	21時	まで							
10	国庫補助の有無			有										
11	職員の勤務条件や賃金体系の策定有無			有										
12	職員の資質向上のための研修計画策定有無			有										
13	長期休業期間中の昼食提供			有	夏季休業期間	26	日間提供		提供方法	その他（学童クラブ外部からの搬入だが発注は各保護者が行う）				
						(44)	(夏季休業期間の全日数)							
						6	日間提供							
						(13)	(冬季休業期間の全日数)							
有	春季休業期間	9	日間提供		提供方法	その他（学童クラブ外部からの搬入だが発注は各保護者が行う）								
		(12)	(春季休業期間の全日数)											
14	活動内容	児童の意見を聞く場や機会創設有無	有（別紙様式2のとおり）											
		多様な遊びや体験活動の実施有無	有（別紙様式2のとおり）											
15	東京都福祉サービス第三者評価受審有無			有	令和	12	年度	受審予定						
16	直接契約の有無（民設民営の場合のみ）			有										
17	利用料	月額	2,000	円										
		協議書提出有無 （月額利用料14,000円を超過する場合）												

※1 支援単位が2つ以上となる場合は、第8号様式乙に記載ください。

活 動 内 容 の 詳 細

第8号様式における多様な遊びや体験活動については、下記のとおりです。

記

1 児童の意見を聞く場や機会の創設

具体的な内容		
日頃のお子様との関わりの中から、一人ひとりの興味「やってみたい!」や疑問「なぜ?」を汲み取る。職員は、汲み取った声を基にお子様の学年や発達に合わせた足場架け（助言、材料・場の提供等）を行い、興味の実現、疑問の解決ができるよう促す。他にも興味を持ったお子様が関われるよう、適宜子ども会議を行い、協働的に活動を発展させる。このような子どもの意見を活動に反映させる方法についてスタッフ間で共通認識を持ち、全てのお子様の声が施設運営に活かされる仕組みを堅持する。		

2 多様な遊び及び体験活動

項目	実施回数		具体的な内容
「身体を動かす遊び」	毎 日		遊びの内容やルール等をお子様同士で話し合い、決定する機会を設けると共に、お子様の学年や発達に合わせ、自ら「安全に活動する方法」を考えられるようサポートをしながら、以下のような活動を行う。 ・室内での運動遊びの実施（ボール、縄跳び等の遊具も活用） ・長期休業期間は近隣小学校の校庭や体育館での運動遊びの実施 ・ヒップホップ専門講師を招いて学年ごとに週1回のダンスクラブを実施
「製作活動等」	毎 日		アイデアを形にし表し完成（納得）まで継続できる力と論理的思考を育てることや、作品の完成をゴールとせず、作品を使って遊ぶこと、より工夫することで向上する心を育てることをねらいとし、以下のような活動を取り入れる。 ・SDG s の観点を取り入れ「これってまだ使えるかな?」をテーマに廃材を活用した自由工作 ・季節に合わせた製作活動（例：5月 折り紙で鯉のぼり作り等） ・お子様の興味関心に合わせた材料の提供や製作に用いる用具の使用方法的サポートを行う
「地域の文化等に触れる体験」	3	回	家庭や学校でもない第3の放課後の居場所として多様な価値観に触れる機会を設定し、地域に見守られながら活動していることを感じられるよう、関係機関等と連携した活動を取り入れる（例：夏休みのイベントに近隣学童クラブを招待し、交流の場を設ける。保育園の職場体験への参加や、イベント用食材を児童と共に近隣商店にて買い出しに行く等）
「自主学習」	毎 日		学校の宿題や家庭学習を集中して行えるようよう、利用開始後すぐや17時以降に学習タイムを設定。家庭とも連携しながら、児童が前向きに取り組めるようサポートを行う。また、児童自ら集中して、自分で決めたこと、好きなことに没頭する力を養えるよう発達段階に合わせた教材等の準備をする。
「児童の意見を反映させた行事」	5	回	自分たちのやりたいことが実現できる場という意識を持てるよう、お子様の「やってみたい!」の声に寄り添い、こども会議を行いながら、様々な行事を企画する。運営も児童が主体的に行えるようサポートする（例：入学進級おめでとう会、昼食作り、縁日、メンコ大会、お誕生日会等）。その他、日常の活動の中でお子様が興味関心を示した事柄を基に、企画から実行までをお子様自身が探究できる遊びや活動を発展させていく。

3 要件

児童の意見を踏まえた内容となっているか	は い	「参加する」「参加しない」を児童が選択できるか	は い
---------------------	-----	-------------------------	-----